

上士幌町鳥類目録

川辺 百樹¹⁾

Birds of Kamishihoro town, Hokkaido

Momoki KAWABE¹⁾

はじめに

わが国は1993年に「生物の多様性に関する条約」の締約国となり、これに伴い生物多様性保全のための計画の策定などが義務付けられることになった。これに先立ち、環境庁（現環境省）は、1991年から絶滅のおそれのある野生生物のリスト、レッドデータリストを作成し、野生生物の現状把握に取組みはじめた（環境庁自然保護局野生生物課編 1991）。その後、都道府県レベルでのレッドデータリストの作成が行われるようになり、北海道では、2001年にレッドデータブックが刊行された（北海道環境生活部環境室自然環境課編2001）。生物多様性の保全をより実効性のあるものにするためには、市町村レベルにおいても、野生生物の現状把握に務めなければならないことは言うまでもない。このような観点から、上士幌町内における野生鳥類のリストを作成し、種の生息状況を簡潔に説明した。このうち環境省が2006年に公表したレッドリストおよび北海道レッドデータブック（北海道2001）に記載されている種については、保護対策にも言及した。なお、括弧内は地点・標高・年月日・観察者（観察者名ないものは筆者の観察）などを示す。種の配列および学名は、日本鳥類目録第6版（日本鳥学会2000）に従う。

Order PODICIPEDIFORMES カイツブリ目

Family PODICIPEDIDAE カイツブリ科

Podiceps nigricollis nigricollis Brehm ハジロカイツブリ

1 例の記録がある（上士幌：1992.12.2保護）。

Podiceps grisegena holboellii Reinhardt アカエリカイツブリ

まれに飛来（東雲湖：1972.6.17）。

Order PROCELLARIIFORMES ミズナギドリ目

Family HYDROBATIDAE ウミツバメ科

Oceanodroma leucorhoa leucorhoa (Vieillot) コシジロウミツバメ

まれに飛来（糠平：1972.10.5保護/1987.9.25, 上士幌：1999.9.16事故死体）。

Order CICONIIFORMES コウノトリ目

Family ARDEIDAE サギ科

Bubulcus ibis coromandus (Boddaert) アマサギ

まれに飛来（上士幌：1997.5.8保護）。

1) ひがし大雪博物館 080-1403 北海道河東郡上士幌町字糠平 Higashi Taisetsu Museum of Natural History, Nukabira, Kamishihoro-cho, Kato-gun, Hokkaido, 080-1403, Japan

Ardea cinerea jouyi Clark アオサギ

夏鳥。平野部の小林やカラマツ林で営巣。4箇所の営巣地がある。

Order ANSERIFORMES カモ目

Family ANATIDAE カモ科

Anser albifrons frontalis Baird マガン

準絶滅危惧種。1例の記録がある（三股：2005.9.26岩見恭子）。

Anser fabalis middendorffii Severtzov オオヒシクイ

準絶滅危惧種。渡りの時期にまれに飛来（幌加：1999.3.29猛禽に捕殺された死体，上音更：2008.4.10）。

Cygnus cygnus (Linnaeus) オオハクチョウ

渡りの時期に飛来（元小屋ダム：2000.2.14，糠平湖：1986.10.19，上音更：2008.4.10）。

Aix galericulata (Linnaeus) オシドリ

情報不足。夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：2005.3.5）から針広混交林帯（幌加ダム：1988.7.17）の水辺に生息。繁殖個体数の変動は不明。

Anas platyrhynchos platyrhynchos Linnaeus マガモ

繁殖。多くは秋に飛来し、一部が越冬する。平野部から山地の河川・湖沼に生息。

Anas crecca crecca Linnaeus コガモ

冬鳥。平野部から山地の河川・湖沼に生息。

Anas penelope Linnaeus ヒドリガモ

渡りの時期にまれに飛来（元小屋ダム：2003.4.15，糠平湖：1995.12.10）。

Anas acuta acuta Linnaeus オナガガモ

渡りの時期にまれに飛来（東居辺：1998.4.6，元小屋ダム：2003.4.15）。

Aythya fuligula (Linnaeus) キンクロハジロ

渡りの時期に飛来（糠平湖：1976.5.11，音更取水ダム：2002.5.9）。

Aythya marila mariloides (Vigors) スズガモ

渡りの時期にまれに飛来（元小屋ダム：1975.10.7，糠平湖：1973.11.28）。

Histrionicus histrionicus pacificus Brooks シノリガモ

絶滅のおそれのある地域個体群（東北地方以北）。渡りの時期にまれに飛来（糠平湖：1973.12.6）。

Clangula hyemalis (Linnaeus) コオリガモ

1例の記録がある（糠平湖：2003.11.26）。

Bucephala clangula clangula (Linnaeus) ホオジロガモ

渡りの時期に飛来（元小屋ダム：1988.2.20，糠平湖：1975.11.28）。

Mergus merganser comatus Salvadori カワアイサ

繁殖。平野部から山地の河川・湖沼に生息（東居辺：2001.5.21，糠平湖：2005.4.30）。

Order FALCONIFORMES タカ目

Family ACCIPITRIDAE タカ科

Pandion haliaetus haliaetus (Linnaeus) ミサゴ

準絶滅危惧種。湖沼周辺の森林で繁殖。繁殖を妨害しないよう配慮する必要がある。

Pernis apivorus orientalis Taczanowski ハチクマ

準絶滅危惧種。まれに飛来（糠平：2005.5.27，三股：1983.9.30保護）。

Milvus migrans lineatus (Gray) トビ

留鳥。農耕地周辺のカラマツ林や山地の水辺で繁殖。厳冬期に山地には生息しない。

Haliaeetus albicilla albicilla (Linnaeus) オジロワシ

絶滅危惧ⅠB類。湖沼周辺の森林で繁殖(岩見・川辺2006a)。繁殖を妨害しないよう配慮する必要がある。

Haliaeetus pelagicus pelagicus (Pallas) オオワシ

絶滅危惧Ⅱ類。冬に飛来(糠平：2007.3.14, 三股：2007.2.25)。

Accipiter gentilis fujiyamae (Swann & Hartert) オオタカ

準絶滅危惧種。繁殖。平野部のカラマツ林で繁殖。山地の森林帯にも飛来(三股900m：2008.10.17)。

カラマツ林の伐採にあたっては、伐採時期や営巣場所の確保などを考慮する必要がある。

Accipiter gularis gularis (Temminck & Schlegel) ツミ

夏鳥。平野部の森林(東居辺：1976.6.6)から山地の伐開地周辺(糠平：2004.5.27)に出現。

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell) ハイタカ

準絶滅危惧種。繁殖。広葉樹林帯(東居辺：1983.6.5)から高山帯(ウベベサンケ山：1988.8.19)まで出現。カラマツ林の伐採にあたっては、伐採時期や営巣場所の確保などを考慮する必要がある。

Buteo lagopus menzbieri Dementiev ケアシノスリ

1例の記録がある(糠平：2002.4.12)。

Buteo buteo japonicus Temminck & Schlegel ノスリ

留鳥。平野部のカラマツ林から針広混交林帯で繁殖(岩見・川辺1995, 2006b)。

Spizaetus nipalensis orientalis Temminck & Schlegel クマタカ

絶滅危惧ⅠB類。山地の森林帯に生息。まれに平野部に飛来(東居辺：1984.4.1)。繁殖を妨害しないよう配慮する必要がある。

Aquila chrysaetos japonica Severtzov イヌワシ

絶滅危惧ⅠB類。ごくまれに飛来(幌加：1997.9鴨作知弥氏写真撮影)。

Family FALCONIDAE ハヤブサ科

Falco rusticolus Linnaeus シロハヤブサ

1例の記録がある(北居辺：1992.5山本正明氏写真撮影)。

Falco peregrinus japonensis Gmelin ハヤブサ

絶滅危惧Ⅱ類。1例の記録がある(黒石平：2006.2.2岩見恭子)。

Falco subbuteo subbuteo Linnaeus チゴハヤブサ

夏鳥。平野部のカラマツ防風林などで繁殖。山地にも飛来(ウベベサンケ山高山帯：1973.6.11)。

Falco tinnunculus interstinctus McClelland チョウゲンボウ

1例の記録がある(ニペソツ山前天狗岳：1980.10.12)。

Order GALLIFORMES キジ目

Family TETRAONIDAE ライチョウ科

Tetrastes bonasia vicinitas Riley エゾライチョウ

情報不足。繁殖。広葉樹林帯(東居辺：1980.7.17)からハイマツ帯(ニペソツ山1700m：1975.8.15)に生息。厳冬期にダケカンバ帯での観察例あり(三国峠1430m：2007.1.1)。十勝三股でのセンサス調査からは個体数の減少傾向は認められない(ひがし大雪博物館友の会エゾライチョウ調査グループ2005)。

Family PHASIANIDAE キジ科

Coturnix japonica Temminck & Schlegel ウズラ

準絶滅危惧種。1例の記録がある（糠平：1980.10.17事故死体）。

Order GRUIFORMES ツル目

Family GRUIDAE ツル科

Gurs japonensis (Müller) タンチョウ

絶滅危惧Ⅱ類。1983年にはじめて飛来が確認され（川辺1985）、北海道での個体数の増加にともない飛来頻度が高くなっているようである（清水谷：1999.4.25/2007.9.27, 萩ヶ岡：2000.4.14/2008.4.7/2008.5.9）。

Family RALLIDAE クイナ科

Rallus aquaticus indicus Blyth クイナ

北海道レッドデータブック希少種。まれに飛来（糠平1991.5.15保護, 三股：1992.10事故死体）。

Order CHARADRIIFORMES チドリ目

Family CHARADRIIDAE チドリ科

Charadrius dubius curonicus Gmelin コチドリ

まれに飛来（糠平：1976.4.18）。

Charadrius placidus japonicus Mishima イカルチドリ

夏鳥。繁殖。まれに冬も出現。河川の砂礫川原に生息（上士幌橋：1988.6.27, 居辺川：2007.5.4）。音更川では繁殖に適した砂礫川原が消失する傾向にあり、個体数の減少が懸念される。

Pluvialis fulva (Gmelin) ムナグロ

1例の記録がある（萩ヶ岡：1997.10.10）

Family SCOLOPACIDAE シギ科

Tringa glareola Linnaeus タカブシギ

1例の記録がある（東居辺：1980.5.15）。

Heteroscelus brevipes (Viellot) キアシシギ

渡りの時期に河川に飛来（東居辺：2005.5.11）。

Actitis hypoleucos (Linnaeus) イソシギ

夏鳥。開けた川原や湖沼の水辺で繁殖。出現最高標高は720m（三股音更大橋：2002.5.9）。

Scolopax rusticola Linnaeus ヤマシギ

夏鳥。繁殖。広葉樹林帯（東居辺：1976.6.16）から上部針広混交林帯（ニベソツ山小天狗岳1570m：2000.8.16）に出現。

Gallinago gallinago gallinago (Linnaeus) タシギ

渡りの時期にまれに飛来（東居辺：2001.4.16）。

Gallinago hardwickii (Gray) オオジシギ

準絶滅危惧種。夏鳥。農耕地・森林帯の伐開地で繁殖（糠平スキー場：2008.6.13, 三股：2008.5.7）。繁殖個体数の変動は不明。

Gallinago solitaria japonica (Bonaparte) アオシギ

冬鳥。湧水のある河畔に生息（東居辺：1983.1.20, 三股十五の沢：1997.2.2）。

Family PHALAROPODIDAE ヒレアシシギ科

Phalaropus lobatus (Linnaeus) アカエリヒレアシシギ

渡りの時期にまれに飛来（糠平：1974.8.27事故死体/1986.9.4，三股：1986.8.9事故死体）。

Family LARIDAE カモメ科

Larus ridibundus Linnaeus ユリカモメ

まれに飛来（糠平湖：1973.10.19・11.12）。

Larus crassirostris Vieillot ウミネコ

まれに飛来（糠平：2001.7.28保護）。

Sterna hirundo longipennis Nordmann アジサシ

まれに飛来（糠平湖：1985.8.30・9.22）。

Order COLUMBIFORMES ハト目

Family COLUMBIDAE ハト科

Streptopelia orientalis orientalis (Latham) キジバト

夏鳥。平野部の小林などで普通に繁殖。森林帯では開けたところに出現。出現最高標高は1300m(ニベソツ山幌加登山道)。

Sphenurus sieboldii sieboldii (Temminck) アオバト

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：1998.6.13）から下部針広混交林帯（幌加温泉：1989.5.31）に生息。エゾヤマザクラの結実期には人家周辺に飛来する。

Order CUCULIFORMES カッコウ目

Family CUCULIDAE カッコウ科

Cuculus fugax hyperythrus Gould ジュウイチ

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：1991.5.20）から針葉樹林帯（ウベペサンケ山登山口920m：1985.7.6）に生息。

Cuculus canorus telephonus Heine カッコウ

夏鳥。平野部の農耕地（北門：1990.5.30）・森林帯の伐開地（三股：2004.6.10）・高山帯（ウベペサンケ山1650m：1975.5.31）に生息。

Cuculus saturatus horsfieldi Moore ツツドリ

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：2005.5.11）からダケカンバ帯（ウベペサンケ山1400m：1975.5.31）に生息。

Order STRIGIFORMES フクロウ目

Family STRIGIDAE フクロウ科

Ketupa blakistoni blakistoni (Seeböhm) シマフクロウ

絶滅危惧ⅠA類。音更川水系では過去に繁殖（川辺2003）。現在は時おり観察されるが、定住個体はいない（糠平：2005.1.5白木雪乃/2006.5.17/2007.2.18/2008.3.31）。主食である魚類を安定的に確保できないことと営巣可能な樹洞のある大径木の減少が生存を脅かす要因となっており、長期的展望にたった生息環境の復元がなされなければならない。

Asio otus otus (Linnaeus) トラフズク

1例の記録がある（清水谷：1991.4.7-4.12）。

Asio flammeus flammeus (Pontoppidan) コミミズク

1例の記録がある（三股1991.11.9田中康夫）。

Otus scops japonicus Temminck & Schlegel コノハズク

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：1982.5.24）から針葉樹林帯（丸山：1991.8.25）に生息。

Otus lempiji semitorques Temminck & Schlegel オオコノハズク

まれに飛来（糠平：1981.1.24事故死体/1982.9.25事故死体，上士幌：1977.11.8保護）。

Aegolius funereus magnus (Buturlin) キンメフクロウ

絶滅危惧ⅠB類。針葉樹林に生息（幌加：1993.6.1営巣木伐採/1994.4.23・4.27・5.1/1995.5.7/2005.4.1，三股：2001.3.25）。わが国では上士幌町・鹿追町・上川町で4例の営巣が確認されているに過ぎない。このうち2例は営巣木が伐採されており，伐採が生存を脅かす直接的要因となっている（川辺1992,2002）。森林伐採にあたっては，事前調査を徹底し，樹洞のある立木を保存するようにしなければならない。また伐採による疎林化が林床にササ類の繁茂を促し，本種の採食の阻害要因となっている可能性があることから，生息地での伐採率を低く抑える必要がある（川辺2002）。

Ninox scutulata japonica (Temminck & Schlegel) アオバズク

夏鳥。糠平で1973年から1985年まで生息が確認されていたが，その後観察されていない。

Strix uralensis japonica (Clark) エゾフクロウ

留鳥。繁殖。広葉樹林帯から針葉樹林帯（幌鹿峠1020m：1980.9.10）に生息。出現最高標高は石狩岳山頂（1990.9.23桧座幸雄）。

Order CAPRIMULGIFORMES ヨタカ目

Family CAPRIMULGIDAE ヨタカ科

Caprimulgus indicus jotaka Temminck & Schlegel ヨタカ

絶滅危惧Ⅱ類。夏鳥。少数の観察例があるに過ぎない（黒石平：1975.6.20，糠平ダムサイト：1978.8.2，三股：1978.6.14/1979.7.22/1996.6.12米川洋）。1996年を最後に観察されていない。

Order APODIFORMES アマツバメ目

Family APODIDAE アマツバメ科

Hirundapus caudacutus caudacutus (Latham) ハリオアマツバメ

夏鳥。幌加での営巣例がある（川辺・田中1997）。

Apus pacificus pacificus (Latham) キタアマツバメ

夏鳥。平野部ではまれだが，高山ではよく観察される（東居辺：1983.6.8，ニペソツ山天狗岳：1995.8.3）。

Order CORACIIFORMES ブッポウソウ目

Family ALCEDINIDAE カワセミ科

Ceryle lugubris pallida Momiyama エゾヤマセミ

北海道レッドデータブック希少種。留鳥。主に山地の河川に生息（東居辺：1984.6.28，三股：1996.6.12営巣 米川洋）。最高出現標高は720m（三股音更大橋：2002.5.9）。営巣場所（河川沿いの露頭）が限られていることから営巣可能な場所の保全に配慮する必要がある。

Halcyon pileata (Boddaert) ヤマショウビン

1例の記録がある（東雲湖：1965.6.3日本鳥学会1974）

Halcyon coromanda major (Temminck & Schlegel) アカショウビン

北海道レッドデータブック希少種。まれに飛来（川辺2003）。

Alcedo atthis bengalensis Gmelin カワセミ

少数が繁殖（東居辺：1990.5.18）。本種の営巣に適した泥質の河岸堆積物が分布する地域に限られるため個体数は少ない（糠平：1974.7.25事故死体）。

Family UPUPIDAE ヤツガシラ科

Upupa epops saturata Lönnerberg ヤツガシラ

2例の記録がある（三股：1987.4.30, 上士幌：1999.6.7田中年男氏写真撮影）。

Order PICIFORMES キツツキ目

Family PICIDAE キツツキ科

Jynx torquilla japonica (Bonaparte) アリスイ

夏鳥。繁殖。広葉樹林帯（東居辺：1987.7.11）から下部針広混交林帯（三股：1996.6.12）の林縁に出現するが、多くはない。

Picus canus jessoensis Stejneger ヤマゲラ

留鳥。繁殖。広葉樹林帯（東居辺：1992.4.13）から下部針広混交林帯（幌加温泉：1989.6.23営巣）に生息。まれに上部針広混交林帯に出現（三国峠1350m：2009.3.1）。

Dryocopus martius martius (Linnaeus) クマゲラ

絶滅危惧Ⅱ類。留鳥。下部針広混交林帯から上部針広混交林帯に生息。営巣最高標高は1050m（温泉山：1991.6）。まれに平野部の広葉樹林に出現（東居辺1982.3.20）。厳冬期に上部針広混交林帯での観察例あり（三国峠1320m：2007.1.1）。1987年から1988年に音更川上流域の6箇所では営巣が確認されている（川辺1988a, 川辺ほか1990）。繁殖個体数が減少傾向にあるか確認されていないが、繁殖個体数のモニタリングが必要である。

Dendrocopos major japonicus (Seeböhm) エゾアカゲラ

留鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯（南クマネシリ岳1040m：1992.7.12）で繁殖。人家周辺でも営巣する。非繁殖期にはダケカンバ帯にも出現（ニベソツ山1600m：1988.9.7）。

Dendrocopos leucotos subcirris (Stejneger) エゾオアカゲラ

北海道レッドデータブック留意種。留鳥。広葉樹林帯（東居辺2004.5.19）から下部針広混交林帯（幌加600m：1989.5.31）で繁殖。非繁殖期にはダケカンバ帯にも出現（三国峠1410m：2006.4.1）。繁殖個体数の減少は確認されていない。

Dendrocopos minor amurensis (Buturlin) コアカゲラ

北海道レッドデータブック希少種。広葉樹林帯に生息（東居辺：1989.5.17）。まれに山地の森林帯の林縁部に出現（糠平：1993.1.26, 幌加650m：1997.10.19）。

Dendrocopos kizuki ijimae (Taka-Tsukasa) エゾコゲラ

留鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯（石狩岳登山口810m：1989.6.14）で繁殖。繁殖後ダケカンバ帯にも出現（ニベソツ山1300m：1975.8.15）。厳冬期に上部針広混交林帯での観察例あり（三国峠1320m：2007.1.1）。

Picoides tridactylus inouyei Yamashina ミユビゲラ

絶滅危惧ⅠA類。わが国では上士幌町と東川町で記録されているに過ぎない。上士幌町では三股（1942.9.19・11.11・12.17/1943.2.19/1956.6.7ヒナ3羽保護）とニベソツ山（1960.7/1988.9.1）で生息が知られる（川辺2003）が、1989年以降確認されていない。藤巻（2002）は、本種の存続を脅かす原因として、「生息地の森林帯では、一部で伐採が行われており、良好な生息環境は減少傾向にある」としているが、伐採によって生息環境がどのように悪化しているのかについて具体的にふれていない。また、本種が寒帯林に広く分布しとしているが、寒帯林は植生帯区分の上から正しくなく（沼田編1974）、亜寒帯針葉樹林（吉良1971）あるいは北方針葉樹林（宮脇編1977）とするのが適切である。Winkler et al(1995)は、北方や山岳の針葉樹林に生息し、トウヒ属種との結びつきが深いことを指摘している。本種がトウヒ属種の優占する森林を選好する理由として、トウヒ属種の樹皮を剥ぎ穿孔性昆虫を採食することがあげられる。大雪山系では伐採によりトウヒ属種であるエゾトウヒ（エゾマツ）が減少しており、このことが本種の生存を脅かす要

因となっていると考えられる（川辺1990）。また穿孔性昆虫の生息場所となる倒木が害虫防除対策として森林から運び出されることも本種の生存を困難にする要因となっていると考えられる。したがって、採餌木となるエゾマツを保存し、風倒木を残置するようにしなければならない。

Order PASSERIFORMES スズメ目

Family ALAUDIDAE ヒバリ科

Alauda arvensis japonica Temminck & Schlegel ヒバリ

夏鳥。平野部の農耕地・森林帯の大きな伐開地に生息（糠平スキー場：2005.6.14, 三股：2004.6.10）。

Family HIRUNDINIDAE ツバメ科

Riparia riparia ijimae (Lönnerberg) ショウドウツバメ

夏鳥。平野部の河川沿いに生息（東居辺：1989.6.9, 清水谷：1985.6.16）。

Hirundo rustica gutturalis Scopoli ツバメ

まれに飛来（糠平：2007.4.20）。

Delichon urbica dasypus (Bonaparte) イワツバメ

夏鳥。建物、ダム、橋梁など建築物に営巣（川辺1988b）。現在岩壁での営巣は確認されていない。

Family MOTACILLIDAE セキレイ科

Motacilla cinerea robusta (Brehm) キセキレイ

夏鳥。繁殖。崖のある河川に生息（東居辺：1997. 5.7営巣, 幌加川1720m：1994.7.10）。

Motacilla alba lugens Gloger ハクセキレイ

夏鳥。少数が冬季に出現。市街地・農耕地・山間の集落に営巣。最高営巣地点は1120m（三国峠：2000.7.11）。

Motacilla grandis Sharpe セグロセキレイ

留鳥（川辺2005a）。砂礫川原や山間集落に生息（川辺2004a）。三股・糠平などでは、近年、営巣場所あるいは採食場所の消失にともない繁殖しなくなった（川辺2007）。音更川では繁殖に適した砂礫川原が消失する傾向にあり、個体数の減少が懸念される。

Anthus hodgsoni hodgsoni Richmond ビンズイ

夏鳥。繁殖。平野部の小林やカラマツ林（北門：1987.7.17）・山地の森林帯の伐開地（糠平スキー場：1990.6.20）・高山帯（ウベベサンケ山1790m：2000.8.13）に生息。

Anthus spinoletta japonicus Temminck & Schlegel タヒバリ

渡りの時期に飛来（東居辺：2007.5.4, 糠平：1987.4.16, 三股：1996.4.29）。

Family PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

Hypsipetes amaurotis amaurotis (Temminck) ヒヨドリ

留鳥。広葉樹林帯で繁殖。非繁殖期には下部針広混交林帯や針葉樹林帯にも出現。最高出現標高は1450m（三国峠：2009.1.1）。近年繁殖個体数は増加傾向にあるらしい。

Family LANIIDAE モズ科

Lanius bucephalus bucephalus Temminck & Schlegel モズ

夏鳥。繁殖。農耕地・森林帯の伐開地（糠平：2005.4.15, 三股：1989.7.2, 三国峠950m：2001.7.7）に生息。まれに高山帯に出現（ウベベサンケ山1600m：1975.5.31）。

Lanius cristatus superciliosus Latham アカモズ

絶滅危惧ⅠB類。4例の記録がある（東居辺：1983.6.8, 上士幌：1978.6.24, 糠平：1984.5.29, 三股：1977.5.29）。

Lanius excubitor bianchii Hartert オオモズ

まれな冬鳥（東居辺：1982.3.20, 糠平：2005.10.27岩見恭子, 糠平五の沢：2002.4.3, 三股：1991.3.28/1994.10.29/1999.12.3田中康夫）。

Family BOMBYCILLIDAE レンジャク科

Bombycilla garrulus centralasiae Poljakov キレンジャク

冬鳥。平野部の市街地や山地の集落に飛来する。出現最高標高は950m（三国峠：2008.5.10）。

Bombycilla japonicus (Siebold) ヒレンジャク

2例の記録がある（糠平：1979.4.24/1995.2.1）。

Family CINCLIDAE カワガラス科

Cinclus pallasii pallasii Temminck カワガラス

留鳥。繁殖期は山間溪流に生息し、冬は平野部の河川にも出現（川辺1988b,2005a）。

Family TROGLODYTIDAE ミソサザイ科

Troglodytes troglodytes fumigatus Temminck ミソサザイ

多くは夏鳥。下部針広混交林帯（黒石平400m：1977.6.30）からハイマツ帯（ニペソツ山前天狗岳：2000.8.16）で繁殖。冬は下部針広混交林帯・広葉樹林帯に少数が生息（東居辺：1982.1.10, 糠平：1995.1.30, 三股680m：1995.12.24）。

Family PRUNELLIDAE イワヒバリ科

Prunella montanella (Pallas) ヤマヒバリ

1例の滞在記録がある（糠平：1997.1.5～3.31）。

Prunella rubida (Temminck & Schlegel) カヤクグリ

夏鳥。ハイマツ帯で繁殖。藤巻（2000）は、北海道で留鳥としているが、冬季には観察されていない。渡来初期に森林での観察例がある（三股：1996.5.26米川洋）。

Family TURDIDAE ツグミ科

Erithacus akahige akahige (Temminck) コマドリ

夏鳥。下部針広混交林帯から針葉樹林帯で繁殖。出現最高標高は1520m（ニペソツ山：1994.8.22）。

Luscinia calliope (Pallas) ノゴマ

夏鳥。平野部の河畔林の林縁（東居辺1998.6.13）・山地の伐開地（三国峠1000m：2004.6.5）・高山帯の低木林（石狩岳1850m：1975.7.6）で繁殖。

Luscinia cyane (Pallas) コルリ

夏鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯に生息。最高出現標高は温泉山1200m（1987.6.23）。

Tarsiger cyanurus cyanurus (Pallas) ルリビタキ

夏鳥。下部針広混交林帯（糠平川600m：1989.6.11）から高山帯（ニペソツ山前天狗岳1780m：2000.8.16）で繁殖（川辺1988c）。

Phoenicurus aureus aureus (Pallas) ジョウビタキ

1983年にわが国で初めての営巣が糠平で確認された（松田ほか1983）。その後1984年の繁殖期に♂♀各1羽

が、1994、1999、2003年の繁殖期に♂1羽が出現したが、繁殖には至らなかった。東居辺（1981.2.27）と三股（三股橋南650m：2001.10.28松田まゆみ）でも観察されている。

Saxicola torquata stejnegeri (Parrot) ノビタキ

夏鳥。平野部の農地周辺の草地（東居辺2004.5.24）・山地の伐開地（糠平スキー場：2005.5.6、三股：2004.6.10）・高山帯（ニベソツ山前天狗岳1840m：1982.7.29）に生息。

Monticola solitarius philippensis (Müller) イソヒヨドリ

2例の記録がある（糠平ダムサイト：1999.9.1、糠平市街：2004.6.2）。

Zoothera dauma aurea (Holandre) トラツグミ

夏鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯に生息。ウベペサンケ山1200m（1996.6.30）での観察例あり。

Turdus sibiricus davisoni (Hume) マミジロ

夏鳥。下部針広混交林帯・針葉樹林帯に少数が生息（糠平650m：1990.7.17、西クマネシリ岳1050m：2000.7.24）。

Turdus cardis Temminck クロツグミ

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：1991.6.3）から下部針広混交林帯（糠平：1999.5.5）で観察されるが、繁殖については不明。

Turdus chrysolaus chrysolaus Temminck アカハラ

夏鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯に生息。最高出現標高はニベソツ山1000m（1975.6.28）。

Turdus pallidus Gmelin シロハラ

1例の記録がある（糠平：1985.5.18事故死体）。

Turdus obscurus Gmelin マミチャジナイ

渡りの時期にまれに飛来（東居辺：1981.10.31、糠平：2005.5.5、三股音更大橋：1984.10.8、ウベペサンケ山1350m：1974.9.24）。

Turdus naumanni eunomus Temminck ツグミ

冬鳥。平野部から山地まで飛来。年によっては厳冬期も生息。

Family SYLVIIDAE ウグイス科

Urosphena squameiceps (Swinhoe) ヤブサメ

夏鳥。広葉樹林帯から下部針広混交林帯に生息。最高出現標高は800m（幌加音更川：1988.7.6）。

Cettia diphone cantans (Temminck & Schlegel) ウグイス

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：2006.6.7）から高山帯（ウベペサンケ山1600m：1975.5.31）まで生息。

Locustella fasciolata amnicola Stepanyan エゾセンニュウ

夏鳥。平野部の小林から森林帯の伐開地周辺の茂みに生息。出現最高標高は1000m（三国峠：2004.6.5）。

Locustella ochotensis (Middendorff) シマセンニュウ

繁殖期に音更川沿いで1例の記録がある（安村：2006.6.11事故死体）が、繁殖は不明。渡りの時期には山地に飛来（黒石平：2004.9.9事故死体、糠平：2001.9.15事故死体）

Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps Swinhoe コヨシキリ

平野部の河畔のヨシ群落に少数が生息（東居辺：1985.6.20、音更川上土幌橋：1996.7.1、北門1987.7.17）。

Acrocephalus arundinaceus orientalis (Temminck & Schlegel) オオヨシキリ

2例の記録がある（糠平：1994.6.6/1999.6.1）。

Phylloscopus borealis (Blasius) メボソムシクイ

渡りの時期に飛来（川辺2003、2005a）。日本鳥類目録（日本鳥学会 2000）では北海道のものを *P. b. xanthodryas* としているが、翼式と羽色からオオムシクイ *P. b. examinandus* あるいはコムシクイ *P. b.*

*borealis*と判断された（山階1941，清棲1978）。

Phylloscopus borealoides Portenko エゾムシクイ

夏鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯に生息（川辺2005b）。最高出現標高はニベソツ山1320m（1995.8.3）。

Phylloscopus coronatus (Temminck & Schlegel) センダイムシクイ

夏鳥。広葉樹林帯から針広混交林帯に生息（川辺2005b）。出現最高標高は780m（ユニ石狩岳登山口：1998.7.4）。

Regulus regulus japonicus Blakiston キクイタダキ

留鳥。針広混交林帯から針葉樹林帯で繁殖。繁殖後ダケカンバ帯にも出現（ニベソツ山1440m：1994.8.22）。冬は平野部の針葉樹に飛来（東居辺：2005.2.6）。

Family MUSCICAPIDAE ヒタキ科

Ficedula narcissina narcissina (Temminck) キビタキ

夏鳥。広葉樹林帯から針葉樹林帯に生息。最高出現標高はニベソツ山1155m（1996.7.2）。

Ficedula muginaki (Temminck) ムギマキ

渡りの時期にまれに飛来（糠平：1974.10.9/1999.10.1事故死体/2003.11.13）。

Cyanoptila cyanomelana cyanomelana (Temminck) オオルリ

夏鳥。河川沿いの崖のある森林に生息。最高出現標高は800m（幌加音更川：1993.7.4）。不二川で2000年から繁殖個体数のセンサスが行われているが、個体数の減少は確認されていない（ひがし大雪博物館友の会オオルリ調査グループ 2005）。

Muscicapa sibirica sibirica Gmelin サメビタキ

夏鳥。主に針葉樹林帯から上部針広混交林帯下部に生息。渡来期や繁殖後に下部針広混交林帯に出現。出現最高標高は1200m（ウベペサンケ山：1975.5.31）。

Muscicapa dauurica dauurica Pallas コサメビタキ

夏鳥。広葉樹林帯（東居辺：2001.5.21）から下部針広混交林帯（糠平：1988.6.14）に生息。繁殖後針葉樹林帯にも出現（幌鹿峠1020m：1975.7.31）。

Family AEGITHALIDAE エナガ科

Aegithalos caudatus japonicus Prazák シマエナガ

留鳥。広葉樹林帯（東居辺：1985.5.30）から下部針広混交林帯（三股650m：1996米川洋）で繁殖。出現最高標高1620m（ニベソツ山：1995.8.3）。厳冬期にダケカンバ帯での観察例あり（三国峠1450m：2007.1.1）。

Family PARIDAE シジュウカラ科

Parus palustris hensoni Stejneger ハシブトガラ

留鳥。広葉樹林帯（東居辺：1992.5.7）から下部針広混交林帯で繁殖（川辺1997）。厳冬期も糠平（550m）で観察される。

Parus montanus restrictus Hellmayr コガラ

留鳥。広葉樹林帯から上部針広混交林帯（ニベソツ山1150m；2002.5.15）で繁殖（川辺2004b）。繁殖後ハイマツ帯に出現（ニベソツ山前天狗岳：1995.8.3）。厳冬期にダケカンバ帯での観察例あり（三国峠1320m；2007.1.1）。

Parus ater insularis Hellmayr ヒガラ

留鳥。広葉樹林帯（上音更：1988.5.20）から針葉樹林帯（ウベペサンケ山1000m：1972.6.4）で繁殖。ハ

イマツ帯にも出現する（ウベササンケ山1700m：1972.6.4）。厳冬期にダケカンバ帯での観察例あり（三国峠1320m：2007.1.1）。

Parus varius varius Temminck & Schlegel ヤマガラ

清水谷（牧水橋：2003.5.1）と糠平で記録されている。糠平では2003・2004・2005年の3－4月に滞在したが、繁殖はしていない。

Parus major minor Temminck & Schlegel シジュウカラ

留鳥。広葉樹林帯から下部針広混交林帯で繁殖（三股650m：1989.7.2）。繁殖後ダケカンバ帯にも出現（ウベササンケ山1325m：1979.10.13）。厳冬期に針葉樹林帯から上での観察例はない。

Family SITTIDAE ゴジュウカラ科

Sitta europaea asiatica Gould シロハラゴジュウカラ

留鳥。広葉樹林帯（東居辺：1985.5.30）から下部針広混交林帯（三股650m：1986.6.23）で繁殖。厳冬期にダケカンバ帯での観察例あり（三国峠1320m：2007.1.1）。

Family CERTHIIDAE キバシリ科

Certhia familiaris daurica Domaniewski キタキバシリ

留鳥。広葉樹林帯（東居辺2003.6.9，勢多340m：1993.5.26）から上部針広混交林帯（ニベソツ山1390m：1994.11.23）。に生息，

Family ZOSTEROPIDAE メジロ科

Zosterops japonicus japonicus Temminck & Schlegel メジロ

1996年に初めて観察された（東居辺：1996.5.8，上士幌：1996.5.19/2005.5.22，萩ヶ岡橋：2007.6.10，糠平：2005.5.10）。

Family EMBERIZIDAE ホオジロ科

Emberiza cioides ciopsis Bonaparte ホオジロ

夏鳥。平野部の林縁（東居辺：1996.5.8）・山地の集落や道路沿いなど伐開地（糠平：2006.5.18，幌加駅付近：1976.5.13，三股市街：1984.7.26）に生息。

Emberiza fucata fucata Pallas ホオアカ

2例の記録がある（萩ヶ岡：1982.6.12事故死体，糠平：1987.4.30）。

Emberiza rustica latifascia Portenko カシラダカ

渡りの時期に飛来（東居辺：1997.5.7，幌鹿峠1100m：1981.10.13，糠平：2005.5.11）。

Emberiza elegans elegans Temminck ミヤマホオジロ

渡りの時期に飛来（東居辺：1993.3.29，糠平：2005.4.15，西クマネシリ岳1400m：1994.10.8）。

Emberiza aureola ornata Shulpin シマアオジ

絶滅危惧ⅠA類。4例の記録がある（東居辺：1981.5.24，居辺：1985.5.30，萩ヶ岡：1981.6.15，三股：1977.6.5）。

Emberiza spodocephala personata Temminck アオジ

夏鳥。平野部の小林から山地の森林の林縁まで広く生息。出現最高標高は1500m（ニベソツ山：1995.8.3）。

Emberiza variabilis Temminck クロジ

夏鳥。下部針広混交林帯（天宝山725m：2000.6.30）から針葉樹林帯（ニベソツ山1300m：2002.5.15）で繁殖。

Emberiza schoeniclus pyrrhulina (Swinhoe) オオジュリン

渡りの時期にまれに飛来（東居辺：2003.5.3, 糠平：2005.5.14・5.17）.

Plectrophenax nivalis vlasowae Portenko ユキホオジロ

冬鳥（北門：2005.2.21山本正明, 三股：1974.1.2）.

Family FRINGILLIDAE アトリ科

Fringilla montifringilla Linnaeus アトリ

主に渡りの時期に飛来し, 高山帯にも出現（東居辺：2004.4.26, 糠平：2007.3.3/2009.2.15, ウベペサンケ山1600m：1979.10.14）.

Carduelis sinica minor (Temminck & Schlegel) カワラヒワ

夏鳥. 広葉樹林帯から下部針広混交林帯で繁殖. 高山にも出現する(西クマネシリ岳山頂：1994.10.8). 冬の観察例がある(上士幌：1976.1.23, 糠平：1974.2.1, 幌加：1978.1.30)が, これは別亜種オオカワラヒワ *C. s. kawarahiba* (Temminck)である可能性が高い.

Carduelis spinus (Linnaeus) マヒワ

留鳥. 下部針広混交林帯(糠平：1985.5.25)から上部針広混交林帯（ニベソツ山前天狗岳1620m：1982.7.29）に生息. 繁殖は確認されていない.

Carduelis flammea flammea (Linnaeus) ベニヒワ

冬鳥（東居辺：1996.4.15, 北門：1975.12.19, 糠平：1990.1.30, タウシュベツ川：1975.11.12）

Leucosticte arctoa brunneonucha (Brandt) ハギマシコ

冬鳥（東居辺：1981.3.14, 糠平：1991.11.6, 丸山1400m：1998.10.11, 西クマネシリ岳山頂：1994.10.8）. 5・6月に観察されることがある（糠平：2005.5.25・5.29, 幌鹿峠1200m：1984.6.4）.

Carpodacus roseus (Pallas) オオマシコ

渡りの時期にまれに飛来（東居辺：2007.3.26, 糠平：1973.10.26, 三股十七の沢林道：1989.4.29, 三股シンノスケ三の沢：2002.10.27）.

Pinicola enucleator sakhalinensis Buturlin ギンザンマシコ

北海道レッドデータブック希少種. 繁殖期にはニベソツ山（1710m：1995.7.16）と音更山（1850m：1996.7.21）のハイマツ林で記録されているに過ぎないが, 非繁殖期には森林帯に普通に生息（川辺2003）. 厳冬期の出現最高標高は1650m（ユニ石狩岳：2006.1.1）. ハイマツ帯で繁殖することから個体数は多くはないが, 繁殖地における環境変化がほとんどないことから生存を脅かす直接的原因は今のところない.

Loxia curvirostra japonica Ridgway イスカ

夏季は針葉樹林帯に出現（温泉山1050m：1991.6.29, 三国峠1000m：2003.6.28）. 2-4月にはヨーロッパトウヒやモンタナマツの種子を採食するため糠平に飛来する（川辺2003）. 平野部では1例の記録がある（北居辺：1988.6.28事故死体）.

Loxia leucoptera bifasciata (Brehm) ナキイスカ

2例の記録がある（ニベソツ山：1983.4.13柿崎靖, 三股：1991.2.25田中康夫）.

Uragus sibiricus sanguinolentus (Temminck & Schlegel) ベニマシコ

夏鳥. 平野部の林縁（東居辺：1996.5.8）・山地の伐開地（糠平：2005.5.11, 幌加駅跡：1989.4.26, 三股市街：2005.4.24, 石狩岳登山口820m：1975.7.6）に生息. まれに冬に出現（東居辺：1983.1.3）.

Pyrhula pyrrhula griseiventris Lafresnaye ウソ

留鳥. 繁殖期には下部針広混交林帯（糠平五の沢530m：2005.7.24）から上部針広混交林帯（ニベソツ山小天狗コル1600m：1975.8.15）に生息. 冬は平野部の森林にも出現する（勢多320m：2009.2.3）. 別亜種アカウソ *P. p. rosacea* Seeböhmの記録が1例ある（糠平：2004.3.3事故死体）.

Eophona personata personata (Temminck & Schlegel) イカル

広葉樹林帯（東居辺：1985.5.23）から下部針広混交林帯（糠平：2003.5.10）に出現。北海道では夏鳥とされる（藤巻2000）が、冬季もまれに出現する（川辺2003）。

Coccothraustes coccothraustes japonicus Temminck & Schlegel シメ

留鳥。広葉樹林帯（東居辺：1985.6.20）から下部針広混交林帯（三股680m：1996.7.16）で繁殖。まれに針葉樹林帯に出現（ニペソツ山980m：1994.8.22）。冬に出現（糠平：1985.12.16 60羽の群れ）するのは別亜種シベリアシメ *C. c. coccothraustes* Linnaeus と考えられる。

Family PLOCEIDAE ハタオリドリ科

Passer rutilans rutilans (Temminck) ニュウナイスズメ

夏鳥。平野部の小林（東居辺：2004.5.11，上音更：1990.5.11）・山地の集落（糠平：2008.5.8）で繁殖。

Passer montanus saturatus Stejneger スズメ

留鳥。人家周辺で繁殖。三股では1988年に営巣が記録されているが、現在は生息していない。糠平でも近年個体数の減少が著しい（川辺印刷中）。

Family STURNIDAE ムクドリ科

Sturnus philippensis (Forster) コムクドリ

夏鳥。平野部の小林（上音更：1995.6.13）に生息し、山地の集落にときおり飛来する（川辺2003）。

Sturnus cineraceus Temminck ムクドリ

夏鳥。平野部の農耕地帯（北門：1987.7.17）に生息し、山地の集落にときおり飛来する（川辺2003）。

Family CORVIDAE カラス科

Garrulus glandarius brandtii Eversmann ミヤマカケス

留鳥。平野部から山地の森林に生息。出現最高標高は1500m（ウベベサンケ山：1990.9.23）。厳冬期の出現最高標高は900m（三国峠：1995.1.22）。

Nucifraga caryocatactes japonica Hartert ホシガラス

針葉樹林帯からハイマツ帯に生息。厳冬期の記録はない。出現最低標高は540m（糠平：1998.9.23）。

Corvus corone orientalis Eversmann ハシボソガラス

留鳥。平野部の農耕地帯に多い。少数が山地の国道沿いや集落周辺に生息。出現最高標高は700m（三股中の川：1976.5.28）

Corvus macrorhynchos japonensis Bonaparte ハシブトガラス

留鳥。平野部から山地の森林に生息。出現最高標高は2013m（ニペソツ山：1975.8.15）。

Corvus corax kamtschaticus Dybowski ワタリガラス

1990年代半ばからシカの死体を食べるため、冬に飛来するようになった（糠平：2001.3.18/2003.4.10/2006.1.25，三股：1998.1.25/2001.3.18鏡坦）。

おわりに

上士幌町ではこれまでに170種の鳥類が記録されている。このなかには環境省レッドリスト（2006年12月22日公表）の絶滅危惧ⅠA類が3種（シマフクロウ・ミユビゲラ・シマアオジ）、絶滅危惧ⅠB類が5種（オジロワシ・クマタカ・イヌワシ・キンメフクロウ・アカモズ）、絶滅危惧Ⅱ類が5種（オオワシ・ハヤブサ・タンチョウ・ヨタカ・クマゲラ）、準絶滅危惧種が8種（マガン・オオヒシクイ・ミサゴ・ハチクマ・オオタカ・ハイタカ・ウズラ・オオジシギ）、情報不足2種（オシドリ・エゾライチョウ）が含まれている。

とりわけエゾミユビゲラとキンメフクロウについては、保護に細心の注意が払われなければならない。なぜなら、前者はわが国では上士幌町と東川町でのみ生息が、後者は上士幌町、鹿追町、上川町でのみ繁殖が確認されているに過ぎないからである。したがって、上士幌町内におけるモニタリングの推進、さらには前述のような保全対策が不可欠である。

環境省レッドリストおよび北海道レッドブックに掲載されていないが、上士幌町において繁殖個体数の減少が懸念される種は、コノハズク・アオバズク・セグロセキレイ・イカルチドリである。コノハズクとアオバズクは、渡り鳥であることから越冬地での生息環境の変化が個体数の減少に関わっている可能性があるが、繁殖地における実態把握が急務である。また、セグロセキレイとイカルチドリは、砂礫川原を生息地としていることから、音更川における砂礫川原の消失が繁殖個体数の減少をもたらしていると推測される。砂礫川原を確保するため、本来の季節的流量変動を考慮した河川管理が実行されなければならない（環境省編 2002）。

謝 辞

情報を提供いただいた岩見恭子、鏡 坦、白木雪乃、田中年男、田中康夫、桧座幸雄、山本正明、米川洋の各氏、英文の校閲をしていただいた斎藤 潤氏、そして長期に渡る調査の遂行を支えていただいた多くの方に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 藤巻裕蔵, 2002. ミユビゲラ, 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物ーレッドデータブックー2鳥類」(環境省野生生物課編) pp.78-79. 自然環境研究センター, 東京.
- Hans Winkler, David A Christie and David Nurney, 1995. Woodpeckers A guide to the woodpeckers, piculets and wrynecks of the world, p.294. Pica press, Sussex.
- ひがし大雪博物館友の会エゾライチョウ調査グループ, 2005. 北海道中央部, 十勝三股におけるエゾライチョウの個体数調査. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 27-30.
- ひがし大雪博物館友の会オオルリ調査グループ, 2005. 北海道中央部, 大雪山系におけるオオルリの個体数調査. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 31-35.
- 北海道環境生活部環境室自然環境課編, 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001. 北海道, 札幌.
- 岩見恭子・川辺百樹, 1995. 十勝地方北部の山岳森林地帯におけるノスリの営巣環境. ひがし大雪博物館研究報告, 17: 15-24.
- 岩見恭子・川辺百樹, 2006a. 大雪山国立公園でのオジロワシの営巣例. ひがし大雪博物館研究報告, 28: 9-12.
- 岩見恭子・川辺百樹, 2006b. 十勝平野北部で繁殖するノスリの営巣環境. ひがし大雪博物館研究報告, 28: 13-21.
- 環境庁自然保護局野生生物課編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー脊椎動物編, . 日本野生生物研究センター, 東京.
- 環境省編, 2002. 新・生物多様性国家戦略 ~自然の保
全と再生のための基本計画~, p.136. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 川辺百樹, 1985. 上士幌町に飛来したタンチョウについて. ひがし大雪博物館研究報告, 7: 49-50.
- 川辺百樹, 1988a. 音更川上流域におけるクマゲラの生息状況. ひがし大雪博物館研究報告, 10: 37-44.
- 川辺百樹, 1988b. 北海道, 音更川の水辺性鳥類. ひがし大雪博物館研究報告, 10: 27-36.
- 川辺百樹, 1988c. 大雪山国立公園におけるルリビタキの営巣例. ひがし大雪博物館研究報告, 10: 45-47.
- 川辺百樹, 1990. ミユビゲラと十勝三股. ひがし大雪だより, 23: 2.
- 川辺百樹, 1992. 大雪山国立公園におけるキンメフクロウの繁殖. ひがし大雪博物館研究報告, 14: 107-110.
- 川辺百樹, 1997大雪山国立公園, 十勝三股におけるハシブトガラの営巣例. ひがし大雪博物館研究報告, 19: 59-60.
- 川辺百樹, 2002. キンメフクロウ, 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物ーレッドデータブックー2鳥類」(環境省野生生物課編) pp.122-123. 自然環境研究センター, 東京.
- 川辺百樹, 2003. 大雪山国立公園鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 25: 1-49.
- 川辺百樹, 2004a. セグロセキレイの生息地と分布制限要因. ひがし大雪博物館研究報告, 26: 59-78.
- 川辺百樹, 2004b. 北海道の低標高地におけるコガラの繁殖例. ひがし大雪博物館研究報告, 26: 55-57.
- 川辺百樹, 2005a. 分布北辺域におけるセグロセキレイの季節的移動. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 55-61.

- 川辺百樹, 2005b. 北海道十勝平野北部, 東居辺の鳥類. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 37-49.
- 川辺百樹, 2007. 日本列島におけるセグロセキレイとハクセキレイの種間関係. ひがし大雪博物館研究報告, 29: 21-44.
- 川辺百樹・桧座幸雄・久保田康裕, 1990. 音更川上流域における1988・1989年のクマガラ営巣例. ひがし大雪博物館研究報告, 12: 93-96.
- 川辺百樹・田中康夫, 1997. 大雪山国立公園の森林帯におけるハリオアマツパメの営巣例. ひがし大雪博物館研究報告, 19: 57-58.
- 吉良竜夫, 1971. 生態学からみた自然, pp.150-151. 河出書房新社, 東京.
- 清棲幸保, 1978. 日本鳥類大図鑑Ⅲ (増補改訂版) pp.34-35. 講談社, 東京.
- 松田まゆみ・川辺百樹・多田正章, 1983. わが国におけるジョウビタキの繁殖初記録. 鳥, 32: 175.
- 宮脇 昭編, 1977. 日本の植生, pp.486-487. 学習研究社, 東京.
- 日本鳥学会, 1974. 日本鳥類目録改訂第5版, p.226. 学習研究社, 東京.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版, 日本鳥学会.
- 沼田 真編, 1978. 生態学辞典, p.2. 築地書館, 東京.
- 山階芳麿, 1941. 日本の鳥類とその生態第2巻. pp.71-79. 岩波書店, 東京.

Summary

One hundred seventy species of birds in total have been recorded in Kamishihoro town, Hokkaido. Twenty-three species of these birds were included in the Japanese Red List of threatened species. Especially *Picoides tridactylus inouyei* and *Aegolius funereus magnus* should be paid enough attention in order to have proper protection. Because habitats of these species were limited to Kamishihoro town and neighboring towns. Though *Otus scops japonicus*, *Ninox scutulata japonica*, *Charadrius placidus japonicus* and *Motacilla grandis* are not included in Japanese red list of threatened species, they are concerned about their decline of breeding populations. Therefore the population of these species must be monitored.